

平成 27 年度 第 2 回日野町総合教育会議議事録

1. 日時：平成 27 年（2015 年）11 月 30 日（月）16 時 00 分～17 時 00 分

2. 場所：日野町役場 2 階 201 会議室

3. 出席者（敬称略）

藤澤直広町長：

日野町教育委員会：今宿綾子教育長、教育委員、西村吉弘教育委員、
横山増雄委員、石岡孝浩教育委員、山田教育委員

庶務：安田尚司企画振興課長、加納治夫企画振興課主任

古道清教育次長、高橋正一学校教育課長、安田寛次学校教育課参事

山本和宏生涯学習課長、日永伊久男生涯学習課参事、高浪郁子図書館長

4. 傍聴人 0 人

開会（安田企画振興課長）

藤澤町長：あいさつ

日野中学校授業公開が行われました。地域にとっても、子ども達にとっても良い事業だと思います。学校現場も大変だとは思いますが、落ち着いた学び舎の中で子ども達が健やかに育ってほしいと思いました。総合計画 10 ヶ年の中間総括を行い、懇話会を設置しこの度、答申をいただきました。懇話会の会長より、日野町の特色である公民館の活動強化することが大切であるとの意見をいただきました。公民館は地域の拠点としての場であり、今後、生涯学習課とも議論しながら、地域皆さんの元気な活動の場となるようにしていかなければならないと思っています。

今年は、地方創生と言われていますが、向こう 5 年間の計画を 10 月までに策定し、計画を提出し、1000 万円の交付税を受けることができました。日野菜加工施設の建設についても、この地方創生の上乗せ交付金の計画として国へ提出し、1900 万円が交付されます。先行型の交付金を受け、町史ダイジェスト版の発刊の準備も進めています。このダイジェスト版を活かして、町に歴史に誇りを持って生きていく、育っていければと思います。

町の教育振興の現状と課題等について

藤澤町長：町の教育振興の現状と課題等について説明をお願いします。

庶務：

1) 総括説明（今宿教育長）

① 学校教育（安田学校教育課参事）

- ・ 校種間連携（教師ネットワークミーティング）、I C T、外国語学習、児童・生徒サミット
- ・ 学力向上にかかる分析と「“ひのっこ” 学ぶ力向上プラン」
- ・ 生涯スポーツ、健康づくりへの支援

② 生涯学習（山本生涯学習課長）

- ・ 公民館の活性化（総合計画評価との関係もふまえて）
- ・ 近江日野商人ふるさと館（歴史文化や観光の拠点、町史ダイジェスト版の活用等）
- ・ 生涯スポーツ、健康づくりへの支援

③ 図書館（高浪図書館長）

- ・ 学校司書
- ・ 子育て・高齢者支援機能、中高生へのかかわり、公民館との連携等への期待
- ・ 移動図書館遺憾的サービス、託児サービス、学校の読書活動支援
- ・ 障がい者差別解消法への対応

藤澤町長：不登校の起きやすい特徴的なものがあれば教えてください。

今宿教育長：中学校 1 年生の不登校が多い、原因は様々あります。小学校 3 年生、4 年生ではじまった場合の追跡調査では継続しているという状況があります。早期発見、早期対応が必要であります。

藤澤町長：小規模校から大規模校となる中学校へ入学した際に不登校になると聞いたことがあります、学級編成などで配慮しているのでしょうか。

今宿教育長：学級編制では、リーダー性などの他、人間関係などを考慮して行っています。

藤澤町長：小規模校の子どもが、クラスに一人ということはあるですか。

安田学校教育課参事：一人ということはありません。学校間で連絡を取り合って、確認を取り、複数になるように配慮されています。少数だから不登校になるというケースではありません。

藤澤町長：中 1 ギャップと言われるように、小規模校から大規模校になって、「行きたくない」と思わないでしょうか。

今宿教育長：友達関係は、クラスだけではなく、部活もありますしそこは柔軟に子どもたちは対応していると思われます。

藤澤町長：不登校が滋賀県の水準よりも高いので、なんとか対応していただけたらと思います。

藤澤町長：公民館での「公募サポーター」とは具体的にどんなイメージですか。

山本生涯学習課長：公民館事業の企画立案をしていただく方、実行委員さんではない方を公募し、企画の段階からサポーターの方に関わっていただくというイメージです。

藤澤町長：公民館活動での実行委員さんの力は、運動会や文化祭などでも大変素晴らしい活動をされています。公民館は実行委員活動を基本にしているがそれとは別に、サポーターという形で公民館活動に興味のある人が、活動に関わっていくというイメージでしょうか。

山本生涯学習課長：その通りです。公民館実行委員さんは地区推薦ですが、公募サポーターは自発的に「公民館でこんなことがしたいな」と思っておられる方を公民館活動に参加してもらいたいという思いがあります。

藤澤町長：公民館実行委員とサポーターとの役割分担をしっかりと取り組んでほしいと思います。

藤澤町長：図書館でのビブリオバトルとはどういう意味ですか。

高浪図書館長：高校生から大学生に流行っています。自分が大好きな本を 1 冊持ち寄り、本の良いところについて、5 分間というルールを決め、何人かで発表をし合います。本の内容ではなく、発表の内容の良かった方に投票し、良い点を取った本はチャンプ本として称えられるというゲーム性が高く、けれど本を読んでないと出来ない、本を読みながら、発表する力を養います。高校では全国大会も行われており、来年度の中学校 3 年生の教科書にも掲載され、さらに活発になるのではと期待しています。

藤澤町長：いつからこの言葉は出てきたのですか。

高浪図書館長：3 年ぐらい前からです。

藤澤町長：読書感想文のようなものでしょうか。

高浪図書館長：似たような感じですが、もっと気軽です。ゲーム性があります。

藤澤町長：歴史書と文学書が対戦してもかみ合いますか。

高浪図書館長：自分の好きな本で対戦するので、大丈夫です。

藤澤町長：3 月に開催する図書館 20 周年記念事業のイメージを教えてください。

高浪図書館長：3 月 19 日（土）に 1 日かけて行う予定です。記念講演に永田和宏さんに依頼しています。詩人河野裕子さんの夫で、現在立命館大学教授です。河野裕子さんの思い出などについて、お話しをいただこうと思っています。その他にも楽しい事業を考えています。

藤澤町長：ぜひ賑やかに、多くの方に参加してもらえよう開催してほしいと思います。

西村委員：教育についてはお金もかかるが、その成果はすぐに表れるものではありません。

不登校は喫緊の課題であり、I C T、外国語教育などは新しいテーマであります。これらを縦の軸、横の軸で同時に長く支えられるような施策を打っていかねばいけないと思います。複眼的な目で両方を見ていただき、今日明日に成果が見えないものであっても 100 年の計ということであれば、それにも挑戦して、良い町にしたいと思います。最近は P D C A といったマネジメントシステムがありますが、あまり数値目標にとらわれすぎないようにお願いします。インプットすることは数値にしてもいいと思うが、アウトプットするという子どもの成長や町民の方の喜びは数値で表せない、しかし表せない部分に価値があると思います。ぜひそういった目で進めていただきたいと思います。

藤澤町長：総合戦略の際には K P I について、議論があったと思うが。

安田企画振興課長：達成見通しをもった目標数字を掲げるのですが、そのくらいでは物足りないのではという様々な意見があったことは確かです。

藤澤町長：いわれる通り、教育というものの多くはじっくりとやっていくものと思っています。そのような中で、検証しながら当たり前のようにやっていくのではなく、絶えず問題意識を持って、ベースを持ち取り組むということが大事であると思います。

横山委員：不登校とかいじめに対して学校の先生方は一生懸命対応していると思います。

しかし最近の保護者の現状を見ますと、学校に対してクレームや諸問題を上げています。先生は本来、子どもに使ってもらうべき力を保護者の対応に神経を使っています。そういった中で、現場では目が行き届かない部分があるのではないかと、今宿教育長の言っておられたスクールソーシャルワーカーの強化については特に、未然に防ぐ、芽

が小さいうちに摘み取る、それを継続していけば、結果的にはいじめなども起こってこないのではないかと思います。いじめを出さない、不登校について思い切って予算をつけてほしいと思います。教育相談所に行ける人はいいが、行けない人をどのようにサポートするかキャッチするかが求められています。こちらから攻めていく姿勢で、芽を摘んでいく施策展開が必要であると思います。

藤澤町長：芽が小さいうちから、早い段階での対応が大切です。そのようなことにならないように予防、対応することが大切です。併せて、スクールソーシャルワーカーと共に、学校が主体となって対応することが大切です。教育委員会と福祉課、子育て教育相談センターをはじめとした心理職などの活躍をどのようにやっていくのが良いのかということも、検討を続けていただいていますので、そういう仕組みと併せて、充実評価をどのように図っていくのか、それはまた教育委員会、町長部局全体で議論しなければならないと思っています。

今宿教育長：二つ方向から取り組んでいくという観点が見えてきたと思います。例えば学力については、今その学年の学力が身についてないということをどうするか、これからつまづかせないためにどうするか、不登校であれば今不登校である子をどうするか、不登校にならないためにどうするか、先生、保護者でチームで支援計画を作り、様々な組織と協力しながら、ケース会議を行うなどの仕組みを作っていかなければならないと思います。

藤澤町長：「分かる授業・楽しい授業」を進めていくのは非常に大切ですが、新卒の先生に対しては、指摘するようなことはあるのでしょうか。

今宿教育長：校内研究会をしており、必ず授業を觀てもらい、研鑽してもらっています。

安田学校教育課参事：初任の場合、300時間の研修があります。

藤澤町長：初任者だけでなく、ICT使いこなすために、中堅の先生方も切磋琢磨しなければならないのでは。

安田学校教育課参事：ツールとして授業の中で使えるようにしなければと思います。チームとして議論していかなければならないと思います。

藤澤町長：内部で議論をしてすることが大事。仲良しクラブではいけない、発信する部分がおろそかになってはならない、適正な議論をお願いします。

石岡委員：いじめ、不登校に対して教師では全て対応できない状況ですので、SSWがいれば改善の方向に向かうと思うので、SSWの配置を最優先でぜひお願いしたいと思います。

藤澤町長：SSWの件は、以前より大切である話は聞いています。いじめや不登校などに対しては学校、地域、教育委員会、行政が一丸となって取り組んで行く、共通のコンセンサスにしていくことが大事であると思います。

山田委員：暴力とは違い、見えてないいじめ問題があります。そういった問題に対しては専門的な方に取り組んでもらえればと思います。知識を持っておられる方の力を借りることも大切です。

藤澤町長：学校教職員の頑張り、それを支えるPTAが両輪として、親と子どもを含めた共通のコンセンサスを持って、共通認識となれば良いと思います。行政としての環

境整備をできればと思います。

今宿教育長：いろいろご議論いただき、ありがとうございました。

藤澤町長：これからも、学校教育、社会教育に対して議論いただきたく、どうぞよろしく
お願いします。以上をもって、これで第2回日野町総合教育会議を終了します。

教育委員の皆様には、ご出席をいただき、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

閉会

以 上